

ピザとパスタ最強激突
マルゲリータ
VS
カルボナーラ

November 2008

11

[マンスリー・エム]
定価530円

MONTHLY

第1特集 世界を席巻する

日本人クリエイターの 発想と仕事力

いまや日本人のクリエイティブ力とクラフト力は世界中で認められている。
プロダクト・藤森泰司、ファッション・阿部潤一、建築・重松象平など
グローバルに活躍する若きサムライ37人！
彼らのユニークな発想とビジネスパワーの源泉を探った。



special interview
福山雅治

brand recommended by m
ポール・スミスコレクション

第2特集 m流スタイル提案

ファッションは感動だ！

1. 鞆ありきで世界は広がる
2. 掟破りの「鮮烈レイヤード」

JAPANESE
CREATORS

今や日本人のクリエイティブ力とクラフト力は世界中で認められている。
プロダクト・藤森泰司、ファッション・阿部潤一、建築・重松象平など国境を超えて
ワールドワイドに活躍する若きサムライたち。
彼らのユニークな発想とビジネスパワーの源を浮き彫りにする。

日本人 クリエイターの 発想と仕事力

GO FOR IT!! JAPANESE CREATORS

- 023 **Product&Interior**: コラム=酒井俊彦 プロダクトデザイナー
- 029 **NATSU** 「ビーズにスピリチュアルなメッセージを」
- 030 **清水慶太** 「後ろ姿が美しく、心地よい椅子を」
- 031 **橋本潤** 「1枚の鉄板から広がる無限の可能性」
- 032 **平社直樹** 「桐箆筒を世界標準の家具に押し上げる」
- 033 **石黒猛** 「プロダクトにロマンを追い求める」



ひとつのシャンデリアを製作するために、まずは膨大な量のビーズの束を作る。



マンハッタン橋と摩天楼の夜景をバックに展示された「オーロラ 燈めきの女神」(2007年)。毎年、参加するブルックリンの「Dumbo Art Festival」で発表された。

GO FOR IT!!
JAPANESE
CREATORS

PRODUCT
& INTERIOR

06 NATSU

シャンデリアアーティスト
NATSU

1976年生まれ。女子美術大学芸術学部造形計画課程卒業後、渡米、N.Y.の「Parsons School of Design」に入塾。制作活動を開始。エドナ・シンヨンスターバックス(女)の日本のシエロンのデザイン・スプレイ用の作品を手掛けた実績を持つ。



「物質的なものと精神的なものの調和を計る。人工的なプラスチックビーズに生気を吹き込むイメージで作品を作っています」

人工的なプラスチックビーズで 有機的なシャンデリアを作り出す

本誌特集のリサーチ中、シャンデリアとアートを融合した斬新な作品を作る女性がアメリカにいるとの情報を得て、海外で活躍する日本人クリエイターの層の深さを知るといった意味で、ぜひ話を聞いてみたくなった。

「昔は、日本人アーティストとして紹介されることが好きじゃなかったんです」

そう打ち明けてくれたのは、N.Y.をベースにアメリカで活躍するシャンデリアアーティストNATSU。

「日本人としてじゃなく、私を見て欲しいと思っていました」

しかし、多くのアメリカ人が彼女の作品を見て、東洋的な美しさ、日本人らしい緻密さ、と評することに驚き、日本人としての強みを意識するようになったという。

ビーズを一粒ずつワイヤーに通すことから始まるNATSU氏のシャンデリア製作。傍目に見ても気の遠くなるほどの作業だ。しか



NYのギャラリーで今年開催された個展で発表した「Meteorite(隕石)001」。手の動きに導かれて作品を創りあげる躍動感ある造形が特徴。写真のようにフロアに設置するものほか、天井から吊るすタイプもある。

し、彼女がビーズを掌に載せて作業している風景は、時を忘れるほどの静謐さをたたえており、その光景はなんとも言えず美しい。

「作業をしているときの姿が、仏様のポーズに近いからでしょうね」と彼女が語るように作品のテーマは自然や神話などスピリチュアルなものが多い。また、古来からビーズを紡ぐ行為には「折り」という意味があったという。彼女がビーズにこだわるのも、何かに折りを捧げるためなのだろうか。

「作品を作る際は、原子の粒が物質を構成するように、ビーズの粒で宇宙を創りあげるイメージを常に意識しています」

アメリカのアート専門誌やギャラリーの注目も集め、さらなる飛躍を期待させるNATSU。そんな彼女は今、アートへの造詣が深いヨーロッパへの進出を計画中。次なる目標は、パリのカルティエ財団で個展を開くことだという。



色とりどりのプラスチックビーズをつないでいく作業の様子。造形を自在に作り出せるように糸ではなく針金を通す。